

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立昭和小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 58人

② 算数 58人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

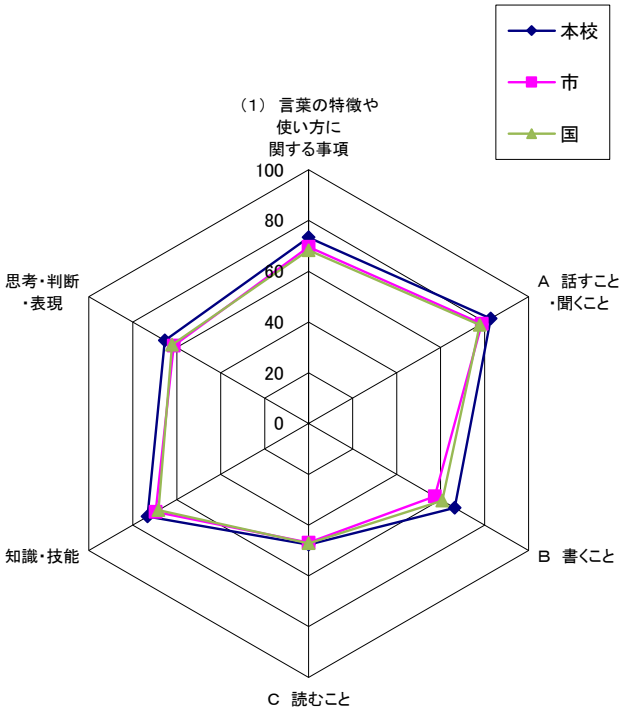
(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立昭和小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	73.3	69.6	68.3
	(2) 情報の扱いに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	82.8	78.7	77.8
	B 書くこと	66.4	57.3	60.7
	C 読むこと	47.7	46.9	47.2
観点	知識・技能	73.3	69.6	68.3
	思考・判断・表現	65.5	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

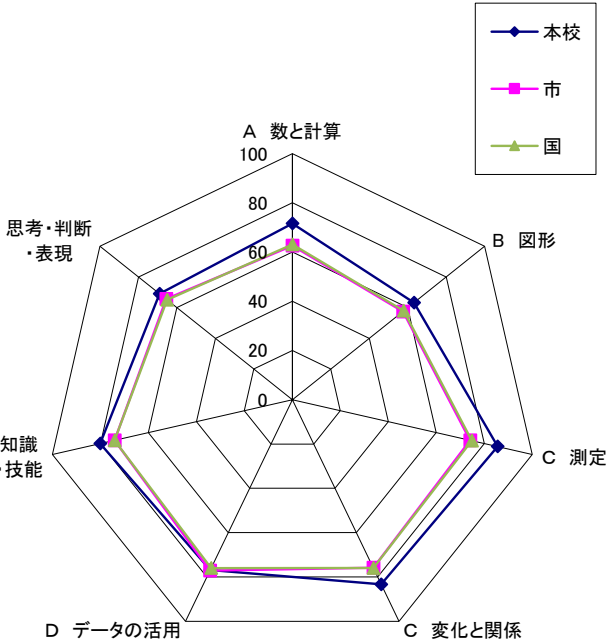
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	○全体の平均正答率は、73.3%と市の平均を4ポイント上回っている。 ○漢字を使って書き直す問題では、正答率は90.2%、80.3%とどちらも県や市を上回っている。 ●文章中の修飾されている言葉を選択する問題では、県や市の正答率を上回っているが、47.5%と低い結果であった。	○引き続き、新出漢字について繰り返し練習していくとともに、今までに学習した漢字についてもミニテストやまとめのテストを実施することで、確実に習得できるようにする。 ・学習した漢字を繰り返し練習するだけでなく、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中で正しく使うことができるようにしていく。
A 話すこと・聞くこと	○全体の平均正答率は82.8%と、市の平均を4ポイント上回っている。 ○スピーチの構成を選択する問題やスピーチと資料との関連を考える問題の正答率で、市や全国の平均を上回った。 ●目的や意図に応じ、資料を使って話すことを選択する問題では、正答率は市や全国の平均を下回った。	・視点を与えた話し方・聞き方を取り入れた授業を意図的に行い、目的に応じて質問することのできる力や質問の意図を適切に捉えて答えることのできる力を身に付けられるようにする。 ・朝の1分間スピーチや総合的な学習の時間での発表の際に、目的や意図に応じて資料を使う機会を設定する。
B 書くこと	○全体の平均正答率は66.4%と、市の平均を9.1ポイント上回っている。 ○自分の主張が伝わるように文章全体の構成や展開を考える問題では、15ポイント近く市や全国の平均を上回っている。 ●目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、書き表し方を工夫する問題では、県や市の平均と同等であった。	・目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、書き表し方を工夫する問題の正答率があまり高くないので、国語の授業だけでなく他教科の学習とも関連を図りながら、資料を適切に読み取るスキルを身に付けさせるとともに、読み取ったことが効果的に伝わる文章表現力を高められるよう、書く機会を意図的に設定し、経験を重ねられるようにする。 ・今後も日記指導を継続させて行い、作文だけでなく、新聞作りや学習の振り返り等、いろいろな場面を通して自分の考えや感想などを文章で表現する機会を増やし、目的に応じた文章表現の技能を高める。
C 読むこと	○全体の平均正答率は47.4%と、市の平均より0.8ポイント上回っている。 ○文章全体の構成を捉え、内容の中心を読みとる事例を把握する問題の正答率は、市や全国の平均を上回った。 ●目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける問題の正答率は、市や全国の平均を下回った。	・日々の読書を奨励し、より充実した読書体験をもたせ、読解力を高めていく。 ・説明的文章では、文章と図表との結び付きを確認し、図表からの理解も含めた文の主旨や内容を理解させるように指導する。 ・日頃から新聞記事や辞典、図書などを授業の中で活用し、図表から必要な情報を読み取ったり、自分の考えをまとめたりする学習を意図的に取り入れる。

宇都宮市立昭和小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	71.6	62.6	63.1
	B 図形	63.2	57.5	57.9
	C 測定	85.6	74.1	74.8
	C 変化と関係	83.3	75.8	75.9
	D データの活用	76.9	77.1	76.0
観点	知識・技能	80.1	74.1	74.1
	思考・判断・表現	69.0	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○市や全国平均を大きく上回っている。 ○余りのある除法の商と余りを基に、23個のボールを6個ずつ箱に入れていくときに必要な箱の数を考える問題では、各問題の正答率が89.7%と高く、市の平均を5.7ポイント上回っている。 ○商が1より小さくなる等分除の場面で、除法の式に表して計算する問題の正答率は65.5%であったが、市の平均を10.5ポイント上回っている。	・小数や分数の四則計算は、少人数指導やドリル等での繰り返し学習で、技能が着実に身に付いてきているので、さらに計算の技能を高められるように、繰り返し学習し、定着を図っていく。 ・文章問題では、問題を図式化したり、数直線をかいたりして、問題の内容をイメージできるように、日々の授業で継続して取り組んでいく。
B 図形	○市や全国平均を大きく上回っている。 ○直角三角形や直角三角形を組み合わせた図形の面積を求める式や、わかることをかく問題の正答率は、62.1%、86.2%で、市の平均を約10ポイント上回っている。 ●二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方や式を記述する問題の正答率は、41.4%と低く、市の平均を6.6ポイント下回っている。	・図形の特徴は、言葉では理解している児童が多いものの、それを活用する問題では、個人差が見られた。また、図形の性質は複数学年で学習するので、それらをまとめて復習し、性質を確実に覚えた上で、それらを活用して問題を解く経験を増やしていく。 ・授業の中で、図形を構成したり分解したりして操作する活動を多く取り入れて学習を進めることで、図形の見方を深め、実感できるように工夫していく。
C 測定	○平均正答率が85.6%で、領域の中で最も高く、市や全国平均を大きく上回っている。 ○2つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する問題の正答率は77.6%で、市の平均を約16ポイント上回っている。 ○条件に合う時刻を求める問題の正答率が、93.1%と高く、市の平均を約4ポイント上回っている。	・時間については、時刻と時間の読みを基に、日常生活における時間の使い方についての計画を立てたり、生活時間の目安をつくったりするなど、日常生活との関連を大切にしながら、実感をもって理解できるようにする。 ・量と測定の領域では、様々な具体物について大きさを調べたり確かめたりする活動を積極的に取り入れて、量の大きさについての感覚を豊かにし、日常生活の様々な場面と関連付けて行い、算数への関心を高めていく。
C 変化と関係	○市や全国平均を大きく上回っている。 ○2つの速さを求める式の意味について、正しいものを選ぶ問題の正答率は74.1%で、市の平均を約18ポイント上回っている。 ○速さと道のりを基に、時間を求める式に表す問題の正答率は87.9%と高く、市の平均を約4ポイント上回っている。	・単位量当たりの大きさを求める問題では、何を単位量とするのか、何を求めるかを理解することが大切なので、数直線をかき、単位量とそれ以外の数値の関係を視覚的にとらえられるよう、授業の中で繰り返し指導し、理解できるように努める。また、身近な場面でも活用できるように、除法や乗法の意味にも着目させ、理解を深めていく。 ・多様な問題に取り組むことで、公式や言葉の式だけでなく、文章を読んで必要な数値や立式するために大切な言葉を読み取れるように、線を引いたり、図に表したりして思考力を育てていく。
D データの活用	○平均正答率は、市や全国平均と同程度である。 ○帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述する問題の平均正答率は56.9%とあまり高くはないが、市の平均正答率を2.3ポイント上回っている。 ●棒グラフから数量や項目間の関係を読み取る問題の平均正答率は91.4%、87.9%と高いが、市の平均をそれぞれ、4.8ポイント、2.5ポイント下回っている。	・グラフの読み方については、棒グラフや折れ線グラフ、柱状グラフなどにおいて、その特徴や読み方、かき方を指導してきたが、今後もメモリの表す大きさに注目させてグラフを読み取ったり、社会や総合的な学習など、他教科とも関連してデータを処理したり考察したりする能力を育てていく。 ・割合については、図や表をよく見て、基準量と比較量の関係を理解し、設問の内容に合った正しい式を立式したり、他教科の学習や実生活の場面で活用できるか、実感をもってとらえたりできるようにしていく。

宇都宮市立昭和小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の肯定的回答は、全国・県の平均を上回っていることから、家庭での児童の規則正しい生活への意識づけが十分行われており、よい生活習慣が身に付いていることがうかがえる。引き続き、家庭への呼びかけを継続していきたい。

○「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」については、肯定的回答が全国・県の平均を上回っており、家庭で約束をきちんと決めて利用していることがうかがえる。

●しかし、「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」では、3時間以上と答えた児童も見られたので、家庭と連携を取りながら、改めて指導していきたい。

●「自分には、よいところがあると思いますか」では、当てはまると回答した児童の割合が全国の平均を若干上回るものの県の平均をわずかに下回っている。また、当てはまらないと回答した児童もわずかに見られた。自己肯定感を高めていけるように、普段の生活の中で、児童一人一人のよさを認め、自分のよさに気付けるようにしていきたい。

○「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」では、肯定的回答が全国・県の平均を上回っていることから、自己の向上に努めたり、他者を尊重する気持ちをもてたりしていることがうかがえる。今後も有意義な学校生活を送り、励まし合えるような人間関係作りにも努めていきたい。

●「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか」では、肯定的回答が全国の平均は上回っているものの県の平均をわずかに下回っており、「どちらかといえば、当てはまらない」と回答した児童も約2割ほど見られた。自分の思いを言葉で表現することに苦手意識をもっている児童もいるので、言葉で表現できたことに対して励まししながら、児童の自信が高まるような言語活動の充実を図ってきたい。

○「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」では、30分以上読書をしている児童の割合が全国・県の平均と比べると非常に高く、約半数を占めている。これからも日常的に読書に親しめるように、学校図書室や地域の図書館を利用できる恵まれた環境を生かして指導を充実させていきたい。

○「今住んでいる地域の行事に参加していますか」「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」に対する肯定割合が全国・県の平均を上回っている。このことから、学校行事への地域の方々の熱心な協力や地域の行事が身近にある本校のよさであり、それを児童もしっかりと学びとっていることがうかがえる。感謝の気持ちをもち、地域を担う一員としての自覚をさらに高められるようにしたい。

○「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」では、肯定的回答をした児童が約8割ほど見られ、全国・県の平均を大きく上回った。今年度から、一人一台端末が配付されたので、児童の学習理解をさらに高めていけるように、授業の中でのICT活用を工夫していきたい。

●「国語・算数の勉強は好きですか」「国語・算数の勉強は大切ですか」については、肯定的回答が全国・県の平均を上回っている。しかし、「英語の勉強は好きですか」では、わずかではあるが全国・県の平均を下回っていた。中学校進学に向けて、英語学習への抵抗を少なくしていけるように、ALTとしっかり連携を取りながら、児童が英語に親しみ、楽しんで学習できるような授業や学習活動の工夫を図ってきたい。

宇都宮市立昭和小学校 (第6学年)
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・協働する力を育てる学び合い活動の充実 ・自己肯定感の向上	ねらいを達成させるための適切な学習形態の選択を工夫したり、学び合い活動を充実させたりすることにより、協働する力を育てる。 ふり返りの学習活動における自己評価や相互評価を工夫し、児童自らのよさへの自覚を深められるようにする。	「学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えている」の肯定的回答が90.2%と高くなっている。今後も、ねらい達成のために適切な学習形態を選択した授業を行うとともに、互いの考えの相違を受け止め、自分の考えを伝え合う活動を通し、互いの考え方のよさに気付かせるようなコーディネートの工夫をしていく。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
条件に応じた文章の書き方	条件を提示して、それに即した文章を意図的に書く場の設定	学年、発達段階に応じて、文章の構成や言葉の選択などを意識した書く活動を取り入れていく。また、まとめやふり返りの場面で、設定されたキーワードを使って文章を書いたり、児童のふり返りを紹介したりして、書く活動を充実させていく。